

令和6年11月7日

滋賀県内経済情勢報告

(令和6年10月判断)

1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」

項目	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

(注) 6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項目	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	↗
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、値上げの影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、行楽地の店舗では好調であるものの、郊外では競合等により来店客数が減少するなど、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売は、食料品の売れ行きが好調であることから、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、防災関連商品に動きがみられたものの、生活必需品以外を買い控える傾向が強くなっており、前年並みとなっている。

家電大型専門店販売は、猛暑の影響によりエアコンの売れ行きが好調であったことから、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、国内旅行を中心に客足が堅調であり、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 全体的に商品価格が上昇しているなか、精肉を始めとした生鮮食品の価格をあえて安く設定することで来店客数が増加しており、売上が伸びている。(百貨店・スーパー)
- 湖水浴に伴う需要などにより行楽地の店舗は好調であるものの、郊外では消費者がより安価な商品を求める傾向が強くなっていることで、近隣店舗との競合が激しくなっており、来店客数が減少している。(コンビニエンスストア)
- クーポン配信日の買上げ点数が多くなっていることから消費者の節約意識の高まりがみられる。商品別では、周辺の競合店よりも低価格で販売している食料品の売れ行きが好調となっており、売上が増加している。(ドラッグストア)
- 台風10号や南海トラフ地震臨時情報の影響により防災グッズや飲料水などに動きがみられたものの、全体としては、生活必需品以外の買い控えにより来店客数が減少していることから、売上が伸び悩んでいる。(ホームセンター)
- 省エネ機能が付いているような高価な家電の需要がみられたほか、猛暑の影響によりエアコンの売れ行きが好調であった。(家電量販店)
- 認証不正問題により一部車種についてはいまだ納車が遅れているものの、全体的には納期が短くなっており、景況としては上向きとなっている。(自動車販売店)
- 前年よりも客室単価を高く設定しているなかでも、国内の個人旅行を中心に客室稼働率は堅調に推移している。(宿泊)
- 値上げの影響により客数は減少しているものの、客単価が上昇していることから、売上は増加している。(飲食サービス)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数(生産)は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」や、医薬品を中心とした「化学」が引き続き高水準で推移しているうえ、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響を受けていた「輸送機械」が上昇していることなどから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造関連について、既存顧客からの受注に落ち着きがみられた一方で、新規顧客を獲得できており、需要は引き続き堅調となっている。(生産用機械)
- コロナ禍では発熱すると病院に行く人が多かったが、コロナの5類移行後は市販薬で対応する人が増えたことで、当社が製造しているドラッグストア向け風邪薬の受注が好調となっている。(化学)
- 認証不正問題の影響を受けて溜まっていた受注残の解消に向け、高負荷で生産を行っている。(輸送機械)
- 想定よりもEV市場が伸びておらず、EV向け部品の生産調整を行っている。(化学)
- 中国経済の停滞や北米の住宅着工の落ち着きにより、産業機械向けの需要が減少している。(金属製品)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は、前年を下回る水準となっているものの、有効求人倍率は、概ね横ばいで推移しているほか、法人企業景気予測調査（7-9 月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 主に製造現場において人手が足りておらず、既存従業員の超過勤務にて不足分を補っている。 （その他製造）
- 人事課を設置し、採用活動を強化していることもあり、順調に人員は確保できている。また、研修や定期的な面談の実施など、採用後の退職を防ぐ活動にも取り組んでいる。 （金属製品）
- 長期にわたって新規採用は行っていなかったが、人手不足のため 2、3 年前から採用活動を再開した。しかし、立地などの問題もあり採用には至っていない。 （化学）
- AI を使用した発注を行うなどして、人手不足解消に向けた取組を行っている。 （百貨店・スーパー）
- 2024 年問題により人手不足が加速しており、利益率が高い仕事など、選別して受注を受けなくてはならない状況になっている。 （建設）
- バス・タクシーなどの乗務職について、賃上げや休暇日数の増加など待遇改善を行っているものの、他社と人材の取り合いとなっており、離職者が多くなっている。 （運輸・郵便）

■ 設備投資 「6 年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」6 年 7-9 月期

6 年度の設備投資は、全産業で 75.7% 増（対前年度増減率、以下同じ）の見込みとなっており、産業別では、製造業で 102.0% 増、非製造業で 52.6% 増の見込みとなっている。

■ 企業収益 「6 年度は増益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」6 年 7-9 月期

6 年度の経常利益は、全産業で 5.9%（対前年度増減率、以下同じ）の増益見込みとなっており、産業別では、製造業で 5.9% の増益見込み、非製造業で 6.2% の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅などが増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額で見ると、市町などで増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 企業倒産 「件数、負債金額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を上回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」6 年 7-9 月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455